

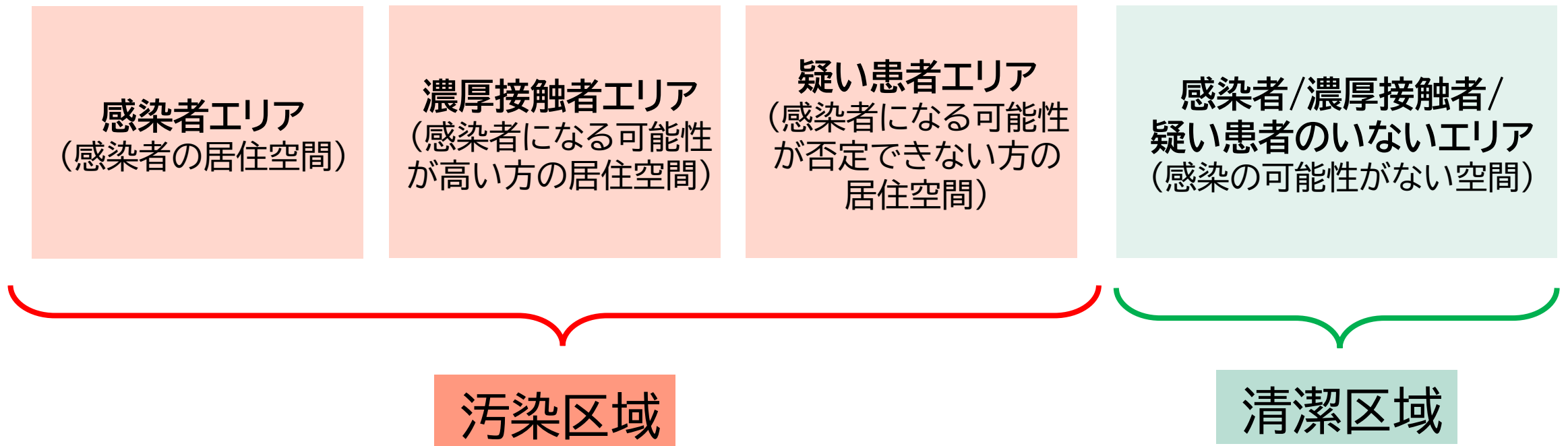
高齢者施設内で新型コロナウイルス感染症の 感染者・濃厚接触者・疑い患者が発生した際の 「ゾーニング」の考え方

本資料は、高齢者施設等で新型コロナウイルス感染症の感染者、濃厚接触者、及び疑い患者が発生した際に、施設内の感染拡大を抑えるために重要となる、「ゾーニング」の考え方の参考資料として作成しました。各施設の実情に合わせて御参照ください。

2021年1月22日

横浜市健康福祉局 健康安全課・高齢施設課

施設内で感染者/濃厚接触者/疑い患者が発生した場合、
速やかに各エリアを設定します
➡ 「ゾーニング」といいます



- それぞれのエリアは、だれが見てもわかるように、テープやついたてを用いて、明確に区分けします
- 感染者エリア、濃厚接触者エリア、疑い患者エリアは、それぞれ区別します

汚染区域(感染者/濃厚接触者/疑い患者のいるエリア)から、 清潔区域に出るときは、 スタッフは、必ず 個人防護具(PPE)を脱ぎます

汚染区域(感染者/濃厚接触者/疑い患者のいるエリア)



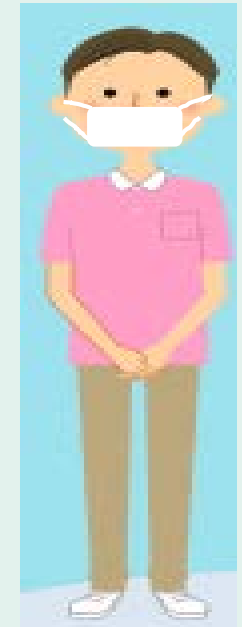
- ・サージカルマスク
(気道吸引をするときはN95マスク)
- ・長袖ガウン
- ・使い捨て手袋
- ・フェイスシールド
飛沫(しぶき)がかかる可能性があるときに着用
(常に着用する必要はありません)

脱衣ゾーン

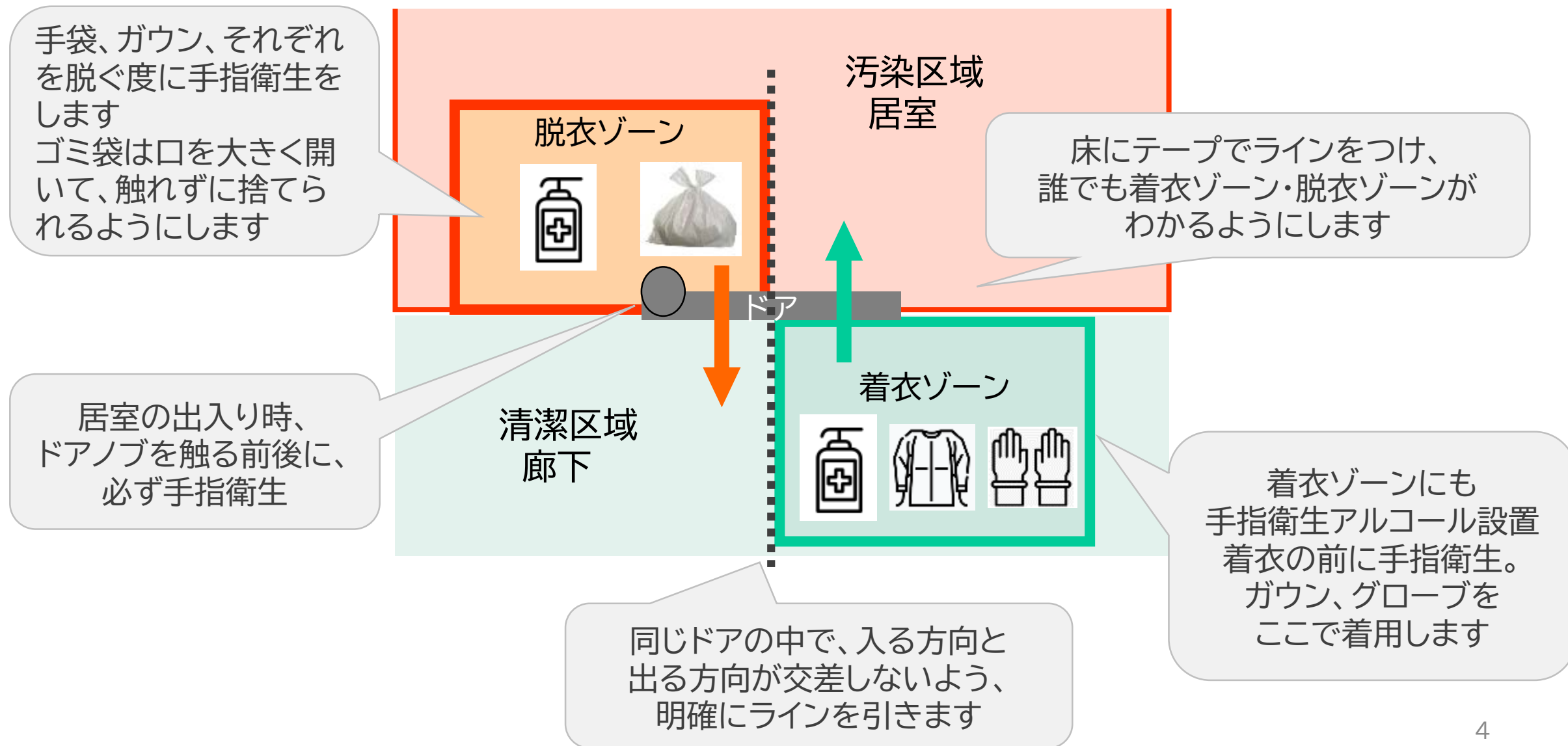


PPEは基本的に、
汚染区域で脱衣します

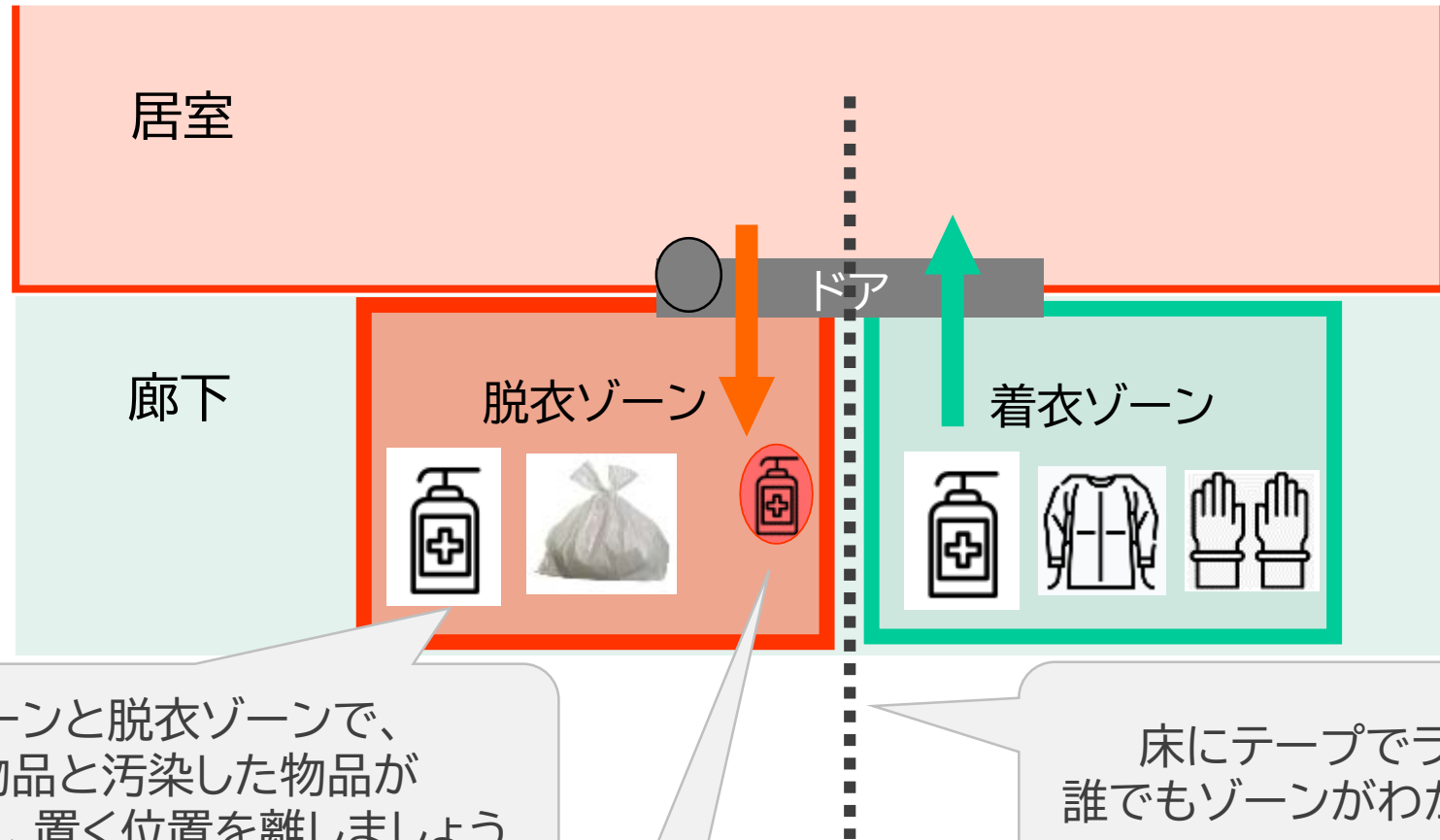
清潔区域



基本は、部屋単位でゾーニングを設定します



応用編： 居室内に消毒薬を置けない場合、 脱衣ゾーンを居室の外に設置します



着衣ゾーンと脱衣ゾーンで、
清潔な物品と汚染した物品が
触れないよう、置く位置を離しましょう

床にテープでラインをつけ、
誰でもゾーンがわかるようにします

居室内で手指衛生するための携帯用アルコール消毒薬(ガウンの上から持つ)を設置します
消毒薬ボトルやストラップの表面は汚染されていると考え、
未使用物品などの清潔な物品の近くに置かず、フックに掛ける等の工夫をします



➡ 「応用編」を実際につくってみると、このような形になります

居室内で使用する消毒薬は汚染区域に置きます

ごみ袋は、袋に触れずに廃棄できるよう、口を大きく開けて設置します



着衣、脱衣の手順がわかるよう、それぞれのゾーンに、手順を掲示します

清潔な物品と汚染した物品が触れないよう、置く位置を離しましょう

同じドアの中で、清潔区域と汚染区域が交差しないよう、入る方向と出る方向がわかるように、明確にラインを引きます
扉の向こうは、汚染区域です。

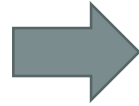


清潔区域でPPE着用をして入室します

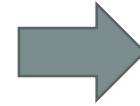


清潔区域でPPEを着衣した後、居室内で使用する消毒薬をつけます

消毒薬のストラップは汚染されているので、装着したあと、手指衛生をします



手指衛生をした手で、ドアに触れます

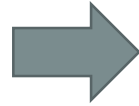


清潔区域から入室します

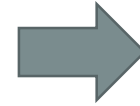
居室から脱衣ゾーンに出て、PPE脱衣を始めます



居室(汚染区域)から
脱衣ゾーンに出ます



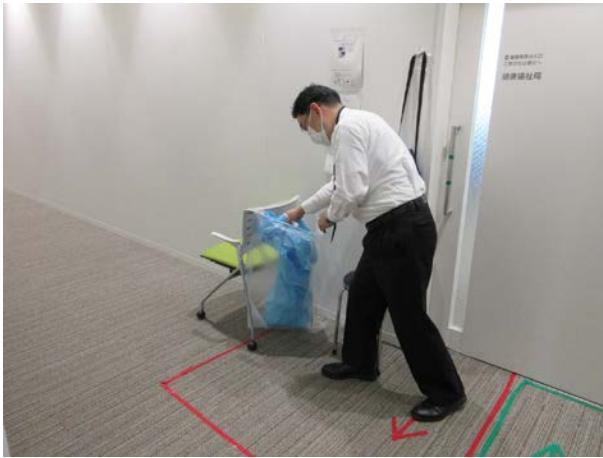
最初に手指衛生をします



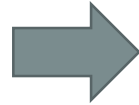
消毒薬を外し、
また手指衛生をします

このあと、脱衣を始めます

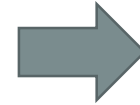
必ず、PPEを脱衣してから、清潔区域に出ます



PPEはゴミ袋に触れずに
廃棄します

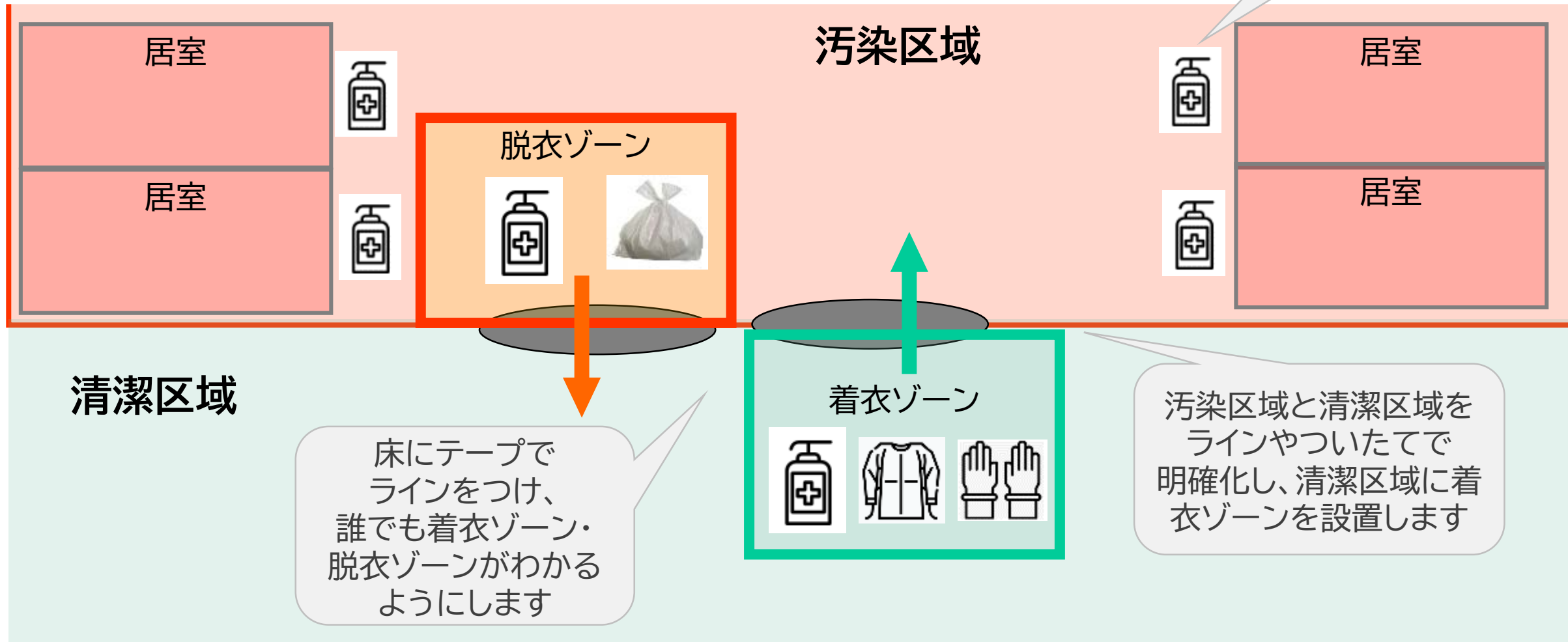


ゴミを捨てたあとも
手指衛生をします

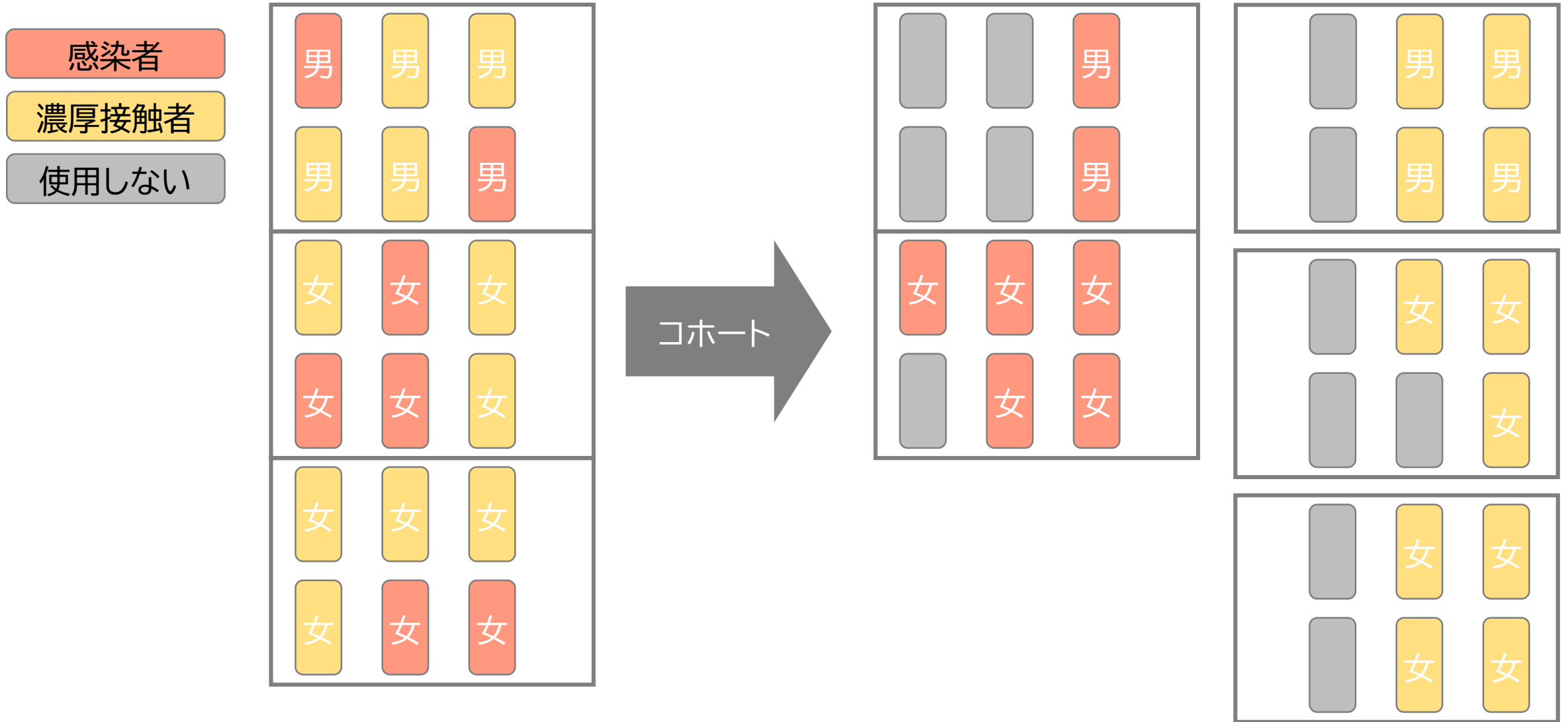


PPEが完全に脱衣できて
から、清潔区域に出ます

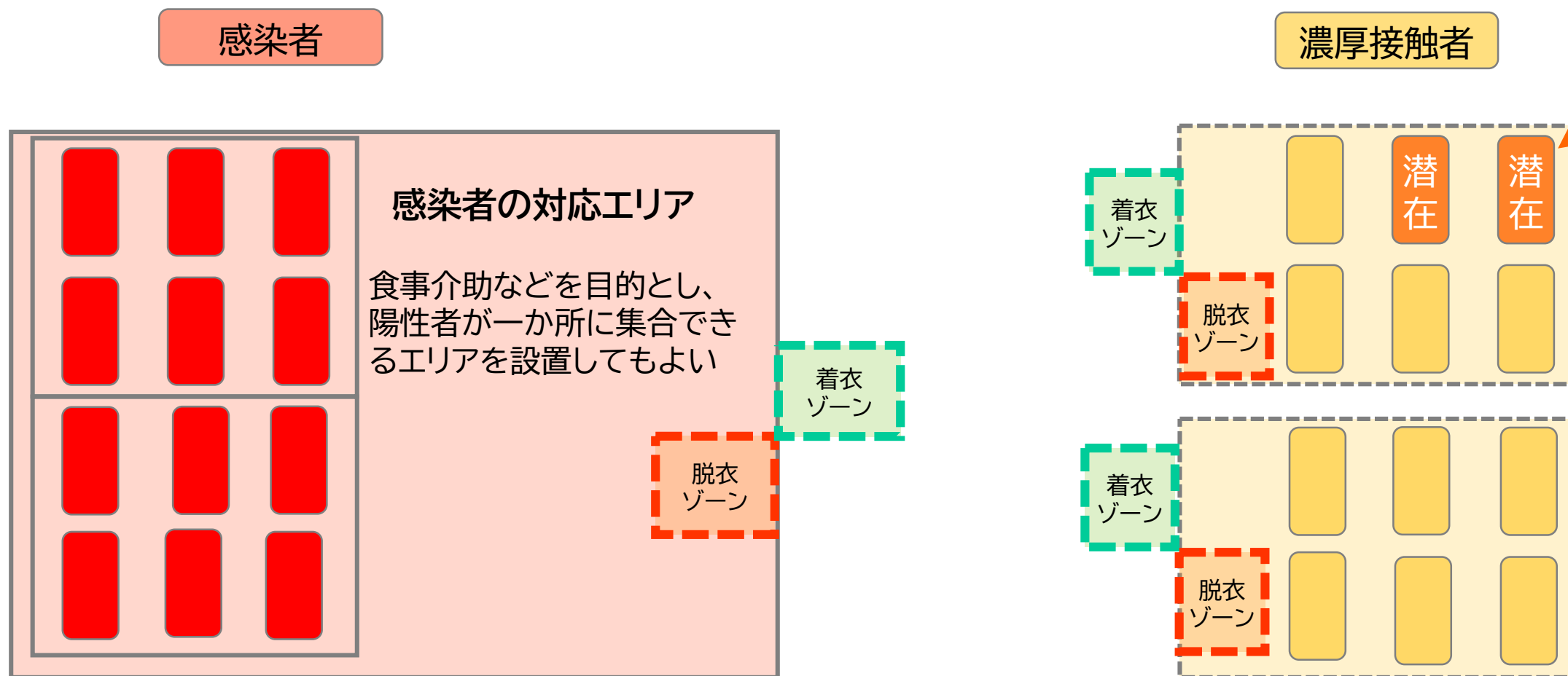
感染者数が多く、1部屋以上の管理が必要となり、
スタッフの部屋ごとのPPE着脱が現実的でない場合、
感染者の対応区域を廊下も含めて設定することを検討します



感染者が散在して発生した場合は、感染者を集めて 速やかに 感染者と濃厚接触者の部屋を分けます(コホート)



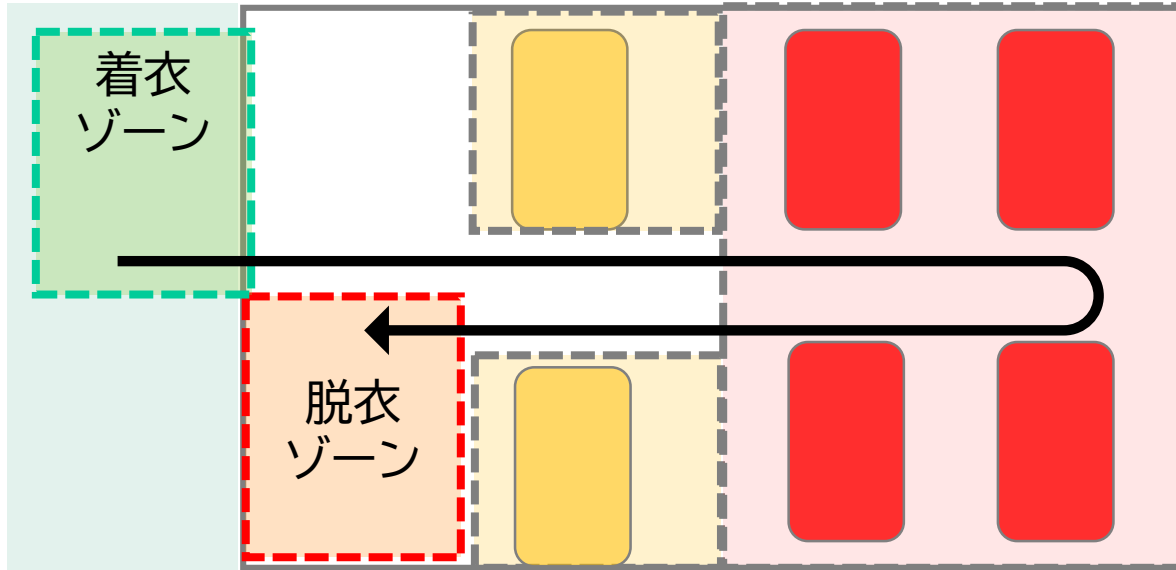
感染者の数が増えた場合、感染者同士の接触を許容します
濃厚接触者の部屋は、潜在する感染者(検査は陰性だった人)が、別の部屋に感染を拡大させないよう、部屋単位で管理します



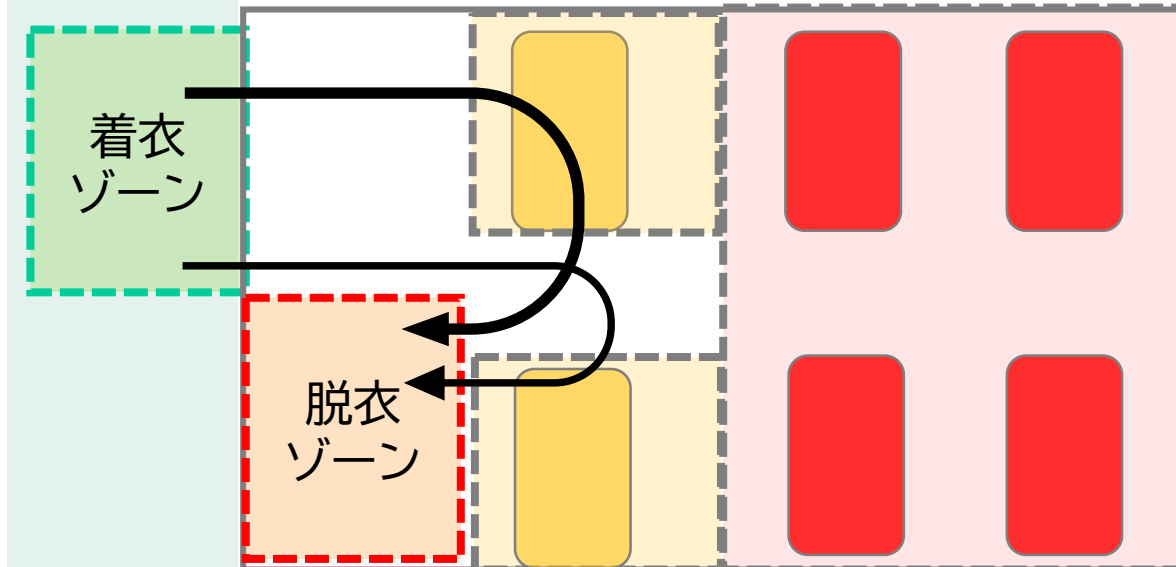
応用編:

感染者と濃厚接触者の部屋単位のコホートが難しい場合、
部屋の中で、区域を分けます(テープ、ついたて、カーテンを使用)

感染者の
対応時



濃厚接触者の
対応時



- 感染者・濃厚接触者が混在する病室は、「感染者対応時」と「濃厚接触者対応時」で、動線を分けます
- 「感染者対応」と「濃厚接触者対応時」の切り替え時に、脱衣し、室外で新たなPPEを着用します
- ベッド周囲のカーテンは、人の接触をできるだけ避けられるよう、足元のカーテンを開放するか、少なくとも、人が入れる幅を開放しておく等、工夫をしましょう
- 感染者・濃厚接触者が混在する病室は、できるだけ窓を開け、頻回な換気をしましょう

清潔区域、汚染区域 どの場面でも、 5つのタイミングでの 手指衛生を徹底してください



https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/78060/9789241503372_jpn.pdf?sequence=3&isAllowed=y

ご自身を守るために…



洗っていない手で、絶対に目・鼻・口を触らないようにしましょう
手洗いは、石けんまたはアルコール消毒薬で、
指先まで丁寧に 何度も行いましょう